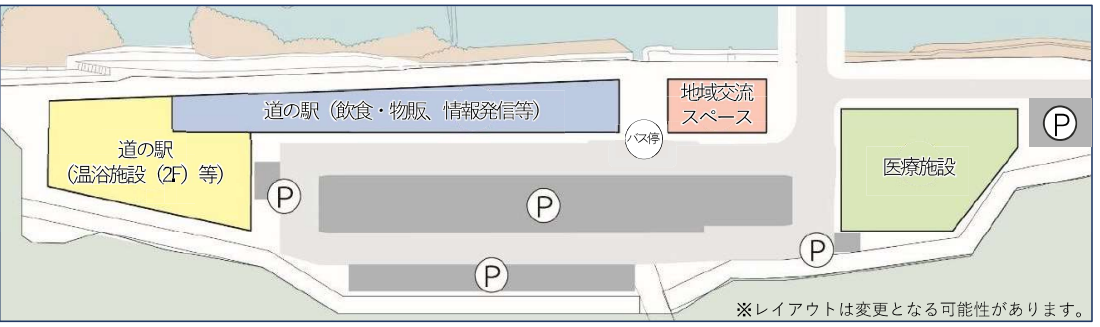


3. 新しい道の駅の整備イメージ

- ・医療施設と隣接する、新しい道の駅には、温浴施設や飲食・物販、情報発信スペース、地域交流スペースを整備します。
- ・新しい道の駅は、塩江温泉郷の顔となるとともに、持続可能な地域社会の拠点（「小さな拠点」）として、地域の活性化、活力の維持、生活基盤の役割を担う予定です。
- ・このため、運営には、塩江の魅力を活かした観光振興、インバウンド活力の取込・地域への展開を視野に入れた、塩江温泉郷全体の活性化に資する官民連携手法を導入し、「小さな拠点」としての機能を高めていくことを検討しています。



◆施設レイアウト



本パンフレットは、令和5年度に、道の駅の管理運営手法を検討するために、地域の皆様ほかにアンケートやヒアリングを行うに当たり、作成したものです。

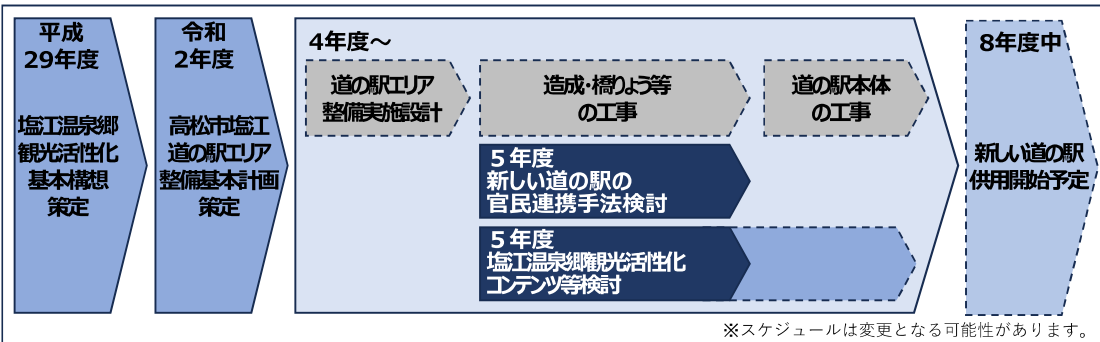


図・写真はイメージです
今後、デザイン等が変更となる可能性があります。

道の駅を生かした塩江温泉郷の活性化

4. スケジュール

- ・令和5年度は、造成や橋りょうの整備等を進めるとともに、インバウンド誘客等による小さな拠点活性化のための官民連携手法検討（道の駅の管理運営手法検討）等を進めています。
- ・新しい道の駅は令和8年度中での供用開始を予定しています。



- 高松市では、現在、高松の奥座敷とも言われる塩江温泉郷の活性化と本市の観光振興に向けて、同地を「オンリーワンの価値を持つ温泉郷」に磨き上げるため、各種施策に取り組んでいます。
- その施策の1つとして、道の駅を生かした「小さな拠点」整備を進めており、新たな塩江地区の顔となる地域・観光交流拠点（ゲートウェイ）として、道の駅を再整備し、医療施設の併設や物販・飲食、温浴、観光情報発信等の機能の導入を検討しています。



【問い合わせ先】

<本事業について>
高松市観光交流課 観光エリア振興室
〒760-8571 香川県高松市番町1丁目8-15 TEL:087-839-2417

(アンケート・ヒアリング業務受託者)

(事業主体)
高松市 観光交流課 観光エリア振興室

1. 塩江温泉郷の現状

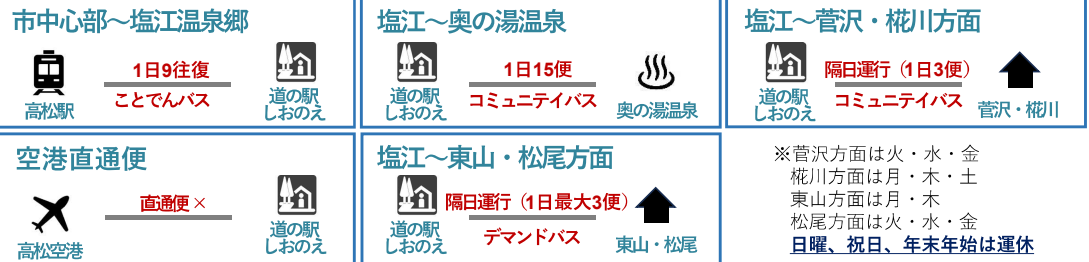
◆現状①：塩江地区の人口等の動態

・人口減少と高齢化が進行しています。



◆現状②：交通アクセスの状況

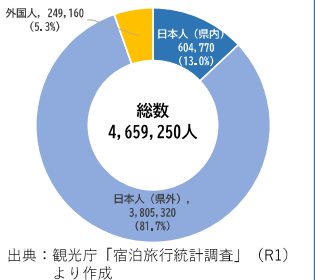
・市中心部からは1日9便のバスが、地区内ではコミュニティバスが運行されています。
・高松空港からの直通便はありません。



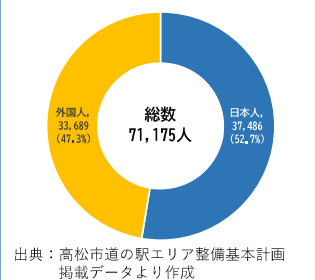
◆現状③：観光客の動態

・香川県には、コロナ禍前の令和元年度には、年間約470万人の宿泊客数が来訪しており、うち外国人観光客は約25万人です。
・塩江温泉郷には、同じく令和元年度には年間約7万人の宿泊客数が来訪しており、うち外国人観光客は約3.3万人です。
・コロナ禍前の高松空港の国際線利用の伸びは著しく、インバウンド等の活力の取り込みが期待されます。
・観光客が訪れる時期にバラツキがあり、コロナ禍でのデータですが、令和3年度の塩江温泉郷の来訪者は、7、8月の夏休みや紅葉、温泉の行楽シーズンに多くなっています。

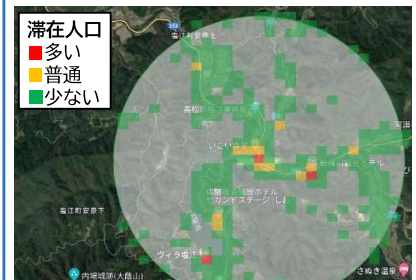
香川県全体の宿泊客数(R元)



塩江温泉郷の宿泊客数(R元)



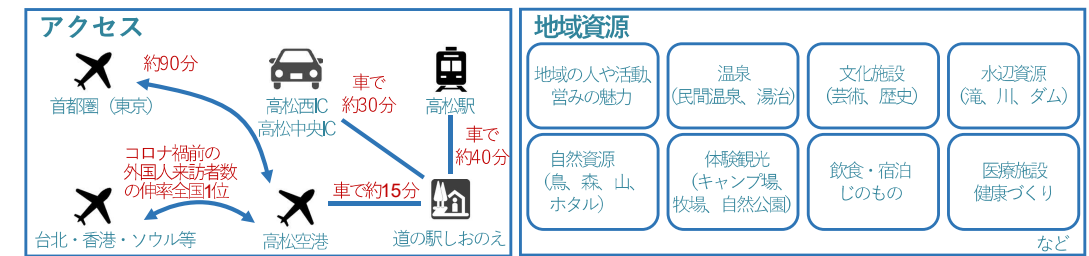
塩江温泉郷の来訪者の動向(R3)



●観光客や地元関係者のニーズ

観光客（日本人）意見	地元事業者等意見
<ul style="list-style-type: none"> ・温泉や滝のほか、季節の影響を受けるホテル等動植物コンテンツの認知度や関心度は高い。 ・一方、通年活かせる美術館やダム、牧場等の施設は未だ認知度や関心度が低い。 ・道の駅自体も観光目的地とはなっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地として高めるためには、交通アクセス、各所・名物化した観光資源（飲食含む）、認知度・PR、まちなみ・景観が、不足、不十分と考えている。 ・道の駅には、観光案内、飲食・直売・温浴の機能に加え、子どもの遊び場、川遊びなどにも対応し、観光とともに、地域の交流拠点。賑わいの拠点となることを期待。

◆現状④：塩江温泉郷のポテンシャル



●道の駅エリアのSWOT分析（強み・弱み分析）

	プラス面	マイナス面
内部環境	強み (Strengths) ○地域資源（温泉・良好な泉質・自然環境） ○インバウンドを中心とした堅調な宿泊者数（R元） ○交通環境・立地環境（高松空港から近距離、国道193号沿い） ○香川県で唯一の国民保養温泉地 ○塩江温泉郷の歴史・ブランド ○道の駅「しのおえ」のサイクルオアシス認定	弱み (Weaknesses) ○観光関連産業の人材・後継者不足、高齢化 ○観光客の移動手段の不足 ○周辺観光関連施設等の老朽化・閉館 ○山間地における平地不足（制約）
	機会 (Opportunities) ○高松空港利用者（インバウンド等）の増加、ハブ空港化 ○温泉の根強い人気、健康志向の高まり ○しのおえ4大まつりや瀬戸内国際芸術祭の関連イベントなどの開催 ○建設技能者を育成する職人育成塾、現代サーカスの創作活動拠点 ○柗川ダム及び周辺の公園整備 ○自然を楽しむ観光やワーケーションなどのニーズの高まり	脅威 (Threats) ○自然災害（積雪・豪雨等） ○社会保障費の増大等による行政の財政状況の悪化 ○外交問題によるインバウンドへの影響 ○地域間競争の激化 ○感染症の拡大の影響による交流人口の減少
外部環境		

2. 道の駅を生かした塩江温泉郷の目指す姿

・塩江地区の将来を見据えた、持続可能なまちづくりの拠点をとするべく、「オンリーワンの価値を持つ道の駅へ」をコンセプトに、整備を進めています。
・その実現のためには、塩江温泉郷内外の関係者が協働していける体制づくりが求められます。

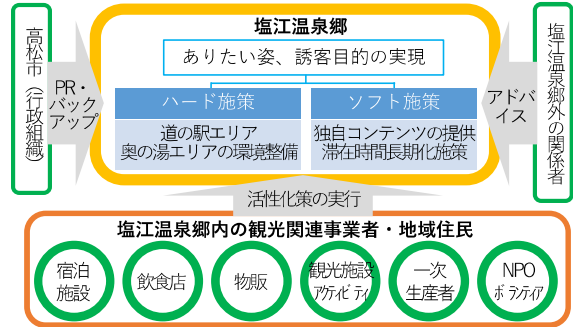
◆新しい道の駅のコンセプト

「オンリーワンの価値を持つ道の駅へ」
 豊かな自然環境と温泉地としての歴史、そこに医療施設が連携することにより、ここにしかないオンリーワンの価値を持つ道の駅として再整備します。

◆新しい道の駅の整備方針

- 自然、歴史、風土、文化等を継承するまちの拠点としての道の駅
 - にぎわい・交流の拠点としての道の駅
 - 健康づくりの拠点としての道の駅
- 道路利用者の休憩所としての道の駅から観光の目的地として選ばれる道の駅への転換を目指します。

◆持続可能な塩江づくりの推進体制（案）



◆奥の湯エリアとの連携方針（基本構想案）

